

株主の皆様へ

# 第93期中間のご報告

2016年(平成28年)4月1日～2016年(平成28年)9月30日

## Contents

株主の皆様へ	1
IRプラザ	3
TOPICS	5
事業別概況・地域別概況	7
連結財務データ	9
会社概要／株式情報	10



太平洋五業株式会社

証券コード：7250



## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第93期中間期（第2四半期連結累計期間：2016年4月1日～2016年9月30日）における営業の概況についてご報告申し上げます。

2016年11月

代表取締役社長 **小川信也**

## ■ 当中間期の概況

当第2四半期連結累計期間（2016年4月1日～2016年9月30日）におけるわが国経済は、政府の経済対策や日銀の金融政策により、雇用・所得環境が改善される一方、円高の進行や株式市場の低迷など、回復の動きには足踏みがみられました。一方、海外においては、緩やかな回復基調が継続する米国、欧州に対し、中国では成長ペースが引き続き鈍化傾向にあり、英国のEU離脱問題に端を発する海外情勢への警戒感等も加わり、先行き不透明な状況が継続しております。

このような中、当社グループの主要事業分野であります自動車関連業界におきましては、主要顧客の自動車生産台数は、日本、米国および中国において、総じて前年同期並みに推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、主に円高による為替換算影響により、497億54百万円（前年同期比4.9%減）となりました。利益面では、為替変動による減益があったものの、原価改善や経費削減活動等の成果により、営業利益は5期連続増益の40億56百万円（前年同期比19.5%増）となり、過去最高となりました。経常利益は主に為替差損の影響により、40億35百万円

(前年同期比0.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は30億94百万円(前年同期比8.1%減)となりました。

当期の中間配当金につきましては、当期の業績を勘案し、前年同期より1円増配の1株あたり13円とさせていただきます。期末配当金につきましても、1株につき13円とし、年間配当は26円とさせていただきます予定です。

## 今後の見通し

当下半期の自動車関連業界は、国内では、前年度に比べ若干の生産増を見込んでおります。海外では、上半期に引き続き、円高の影響が見込まれるものの、米国・欧州では堅調に推移することが予想されます。一方、中国における成長ペースの鈍化や、世界情勢の不安定感の

継続など、不透明感は拭い切れず、自動車産業を取り巻く環境は厳しいものと予想されます。

こうした中、当社で推進している中期経営計画では、積極的な大型投資の成果刈り取りを進めている段階にあります。今後量産開始となる製品で、新たに導入した設備が稼働を始めますが、品質を第一に効率的な生産体制を構築してまいります。

また、今後も持続的な成長をめざしてまいります。その成長を牽引するのは「人財」にほかなりません。改善マインドで仕事ができる人財の育成と、ものづくり改革を推進し、更なる企業体質の強化に邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も当社グループへのご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 連結中間業績ハイライト

■ 通期 ■ 中間期

### 売上高

5期ぶりの減収  
 497 億円  
 前年同期比 4.9%減  
 通期予想 1,000 億円



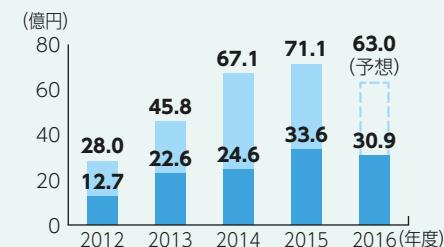
### 経常利益

2期ぶりの減益  
 40.3 億円  
 前年同期比 0.7%減  
 通期予想 87 億円



### 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

5期ぶりの減益  
 30.9 億円  
 前年同期比 8.1%減  
 通期予想 63 億円





## 株主様の疑問にお答えします 太平洋工業 Q&A

当社がIR活動をする中で、株主・投資家の皆様からお寄せいただく、よくある質問・疑問にお答えします。

Q1

昨年から稼働している  
海外の新工場の稼働状況は？

タイの子会社では、当社の加飾技術、防音防振技術を活かしたホイールキャップ、オーナメント、エンジンカバー類の生産を本格的に開始しました。技術・デザイン・コスト競争力が評価され、日系カーメーカー7社から受注を獲得し、順調に売上を伸ばしています。アセアン地域における当社の樹脂製品供給拠点として、更なる拡販を進めています。

米国テネシー州に設立した子会社は、2015年に新工場

が完成し生産を開始しています。導入設備に見合う受注量を確保し、車両のモデルチェンジに合わせ順次生産量を増やしています。お客様のニーズにお応えした製品を提供し、プレス事業の北米第2拠点として順調に拡大しています。

TPMS(タイヤ空気圧監視システム)のグローバル3極生産体制の一つとして、中国常熟市に設立した子会社は、9月7日に開業式を行い、本格生産を開始しました。現在は欧州・中国向け製品の生産を行っていますが、今後は中国でのTPMS装着法制化を見据え、年間300万個の生産体制を構築する予定です。

タイ子会社で生産する  
ホイールキャップ



テネシー子会社のプレス設備



タイ子会社の樹脂製品生産工場



## Q2 TPMSの今後の動向は？

当社は、信頼性の高い直接式TPMSの日本唯一の送信機メーカーとして、タイヤバルブで培ったノウハウを活かした高品質な製品を提供しています。タイヤ内部の空気圧を監視し、ドライバーにタイムリーに異常を伝えるTPMSは、タイヤトラブルを未然に防ぎ安全性を高めるとともに、燃費向上による環境への貢献が期待されています。2005年の北米法制化に始まり、2012年以降、欧州、韓国、台湾、ロシア、GCC諸国<sup>(\*)</sup>まで順次法制化が進んできました。今後は、中国や日本においても法制化が進むことが予測されることから、当社の主力製品として更なる販売量の増加が期待できます。

※GCC諸国：湾岸協力会議6カ国(サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、アラブ首長国連邦、オマーン)



TPMS生産ライン(米国)



TPMS送信機

## Q3 超ハイテン材のプレス加工ライン 増強効果の見通しは？



超ハイテン材を使った製品のCAE解析

自動車業界では、「環境負荷低減のための軽量化」と「衝突安全性向上」という相反する課題を解決するため、剛性の高い超ハイテン材が広く活用されています。当社はボ

デーシェル部品の一層の軽量化ニーズに応えるべく、超ハイテン材の冷間プレス技術、ホットスタンプ技術を確立し、国内外の各拠点で生産ライン導入を進めています。生産ライン増強が完了した地域から順次、設備に応じた製品受注を進めており、投資に見合う受注量が確保できる見込みです。お客様のニーズも高いことから、当社の成長に大きく貢献する事業として期待できます。

## Q4 円高が企業業績に 及ぼす影響は？

当社は、米ドルおよびユーロ建ての輸出入取引を実施しています。ユーロ建ての取引は、輸出金額と輸入金額が均衡しているため、円高の影響は軽微となりますが、ドル建ての取引は、輸出金額が大きいため、売上高および利益にマイナスとなります。また、主に売上高への影響として、在外子会社の財務諸表の円換算時に為替換算差損が発生します。

今期の第2四半期の円高による為替影響は、前年同期と比較し、連結売上高で34億円、連結営業利益で5億円のマイナスとなっています。



名証IRエキスポ2016

## 2016年"超"モノづくり部品大賞『自動車部品賞』受賞 「摩擦攪拌接合によるアルミテールドブランクを用いた自動車用ボデー部品」

摩擦攪拌接合 (Friction Stir Welding (以後FSW)) とは、ツールと呼ばれる棒状の工具を高速で回転させながら材料と接触させ、摩擦熱を利用して接合する工法です。

当社は株式会社UACJと共同で、専用ツールを使い、加工速度と精度を向上させたFSW工法を開発しました。この工法を用いて、板厚の異なるアルミ材を接合してからプレス加工することで、製品の軽量化・低コスト化を実現し、モノづくり日本会議・日刊工業新聞社共催の2016年"超"モノづくり部品大賞「自動車部品賞」を受賞しました。



## トヨタ自動車『新型プリウスPHVプロジェクト表彰』受賞 「薄板ハイテン素材による歯形部品成形の開発」

当社が開発した「ワンウェイクラッチホールディング」は、新型プリウスPHVのエンジンとトランスミッションの間に組み付けられるプレートで、ジェネレーター（エンジン）を駆動用モーターとして切り替え、2モーターでのパワフルな走行を可能にするシステムの中核部品として採用されています。

この部品は、板厚4mmという薄いハイテン鋼材を素材とし、強度と軽量化を両立しながら、高度な工法により、高精度な成形を実現しています。



ワンウェイクラッチホールディング



## ピー モ ニ 機器監視装置「pmoni」の販売開始

当社と子会社のピーアイシステム株式会社は、機器の障害を早期に発見する機器監視装置「pmoni」の販売を開始しました。「pmoni」は、機器のLEDランプ等の光源を光センサーで読み取り、障害発生時の異常をリアルタイムで検知する装置です。障害発生時には、原因解明・復旧の大幅な時間短縮に寄与します。



pmoni



詳細はこちらから

<http://www.pi-system.co.jp/commodity.html>

## タイヤ空気圧・ 温度デジタルゲージの開発

当社は、TPMS（タイヤ空気圧監視システム）送信機が取り付けられたタイヤの空気圧や温度を簡単に測定し、結果を表示できるデジタルゲージを開発しました。キーレスサイズで持ち運びやすく、バルブキャップ着脱の必要がないため手軽に測定が可能です。

この製品はトヨタテクノクラフト株式会社が運営する「TRD」よりご購入頂けます。



タイヤ空気圧・温度デジタルゲージ



詳細はこちらから

[http://www.trdparts.jp/parts\\_wheel-tire\\_gauge.html](http://www.trdparts.jp/parts_wheel-tire_gauge.html)

## CSRレポート2016を発行

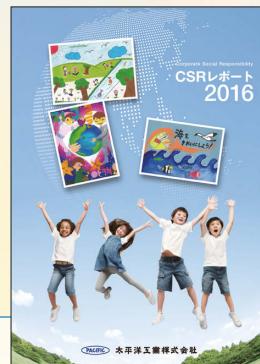
当社グループは、CSRを経営の最重要課題と位置づけ、CSR活動を推進しています。2016年9月に発行した「CSRレポート2016」では、当社のCSRの取り組みを4つの特集を中心に、マネジメント・経済・社会・環境の面から、具体的にわかりやすく紹介しています。



CSRレポートを  
ご覧になりたい方は

WEBサイトから

<http://www.pacific-ind.co.jp/csr/report/>



CSRレポート2016

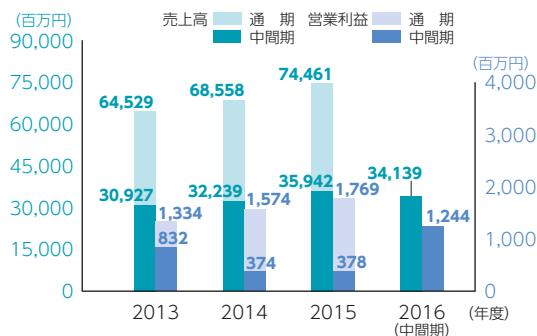


## プレス・樹脂製品事業

売上高 **341億円** 営業利益 **12億円**

主要顧客の自動車生産台数は、日本、米国および中国ともに前年同期並みで推移しましたが、円高による為替換算影響があり、当事業全体の売上高は341億39百万円(前年同期比5.0%減)となりました。利益面では、物量増加に加え、海外工場の立ち上げ費用の減少や原価改善の成果等により、営業利益は12億44百万円(前年同期比229.2%増)となりました。

### 売上高・営業利益



#### プレス製品



ラジエーター  
サポートパネル



ハイブリッド  
バッテリーケース



レーザーヒンジ



オイルパン

#### 樹脂製品



センターオーナメント



ホイールキャップ



エンジンカバー

31.3%

## バルブ製品事業

売上高 **155億円** 営業利益 **28億円**

TPMS製品の販売は比較的順調に推移しましたが、その他のバルブ製品の販売物量の減少や、為替換算影響等により、当事業全体の売上高は155億54百万円(前年同期比4.0%減)となりました。利益面では、原価改善や経費削減等の効果はあったものの、為替変動による減益が大きく、営業利益は28億25百万円(前年同期比6.7%減)となりました。

### 売上高・営業利益



#### タイヤバルブ製品



バルブコア



チュープレスバルブ

#### TPMS製品



TPMS 送信機

#### 制御機器製品



リリーフバルブ



チャージバルブ

#### ダイカスト製品



シリンダー

## 地域別概況



### 日本

主要顧客の自動車生産台数は前年同期並みで推移しましたが、製品構成等の変化により販売物量は増加し、売上高は284億29百万円(前年同期比5.3%増)となりました。利益面では、為替変動による減益や労務費の増加等がありましたが、販売物量の増加や原価改善により、営業利益は24億90百万円(前年同期比5.2%増)となりました。

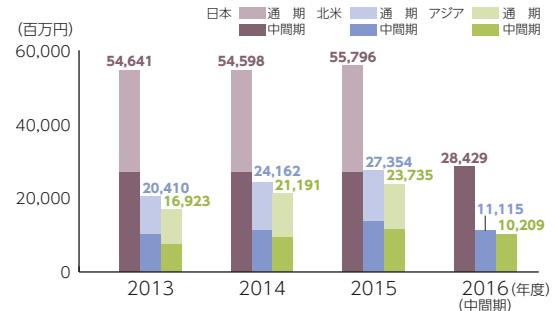
### 北米

堅調な米国経済を背景に、製品売上は順調に推移する中、新規立ち上がり車種の減少による金型売上の減少や為替換算の影響により、売上高は111億15百万円(前年同期比19.3%減)となりました。利益面では、原価改善やテネシー州の子会社の立ち上げ費用減少等により、営業利益は8億47百万円(前年同期比58.6%増)となりました。

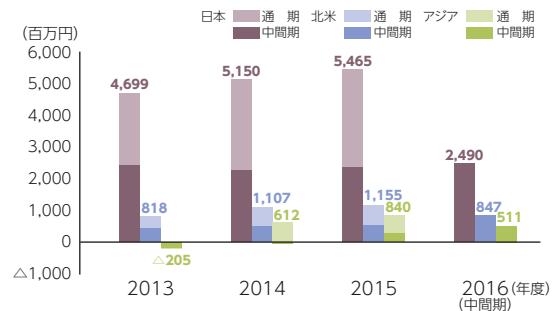
### アジア

主要顧客の自動車生産台数は前年同期並みで推移するも、為替換算の影響により売上高は102億9百万円(前年同期比11.7%減)となりました。利益面では、昨年度より本格稼働したタイの樹脂事業の採算向上等により、営業利益は5億11百万円(前年同期比92.9%増)となりました。

## 地域別売上高



## 地域別営業利益



※なお、セグメント別の金額は、セグメント間取引の消去後の数値であります。

## 事業クローズアップ

### 中国のTPMS生産新拠点で開業式を開催

2016年9月7日、太平洋自動車部品科技(常熟)有限公司において、TPMS送信機の一貫生産ライン完成を記念した開業式を開催しました。

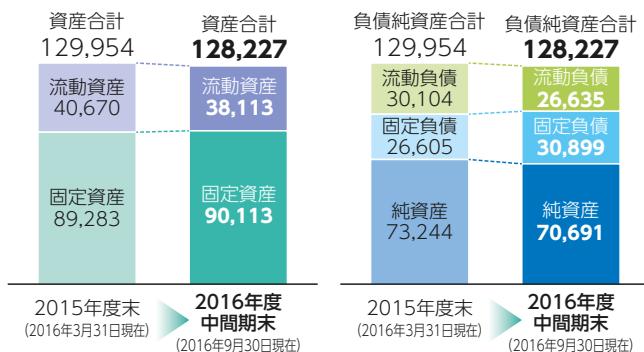
日本・米国に次ぐTPMSの第三の拠点として、本格生産を開始し、2017年度には年間300万個の生産体制を構築する予定です。



中国(常熟市)新拠点での開業式

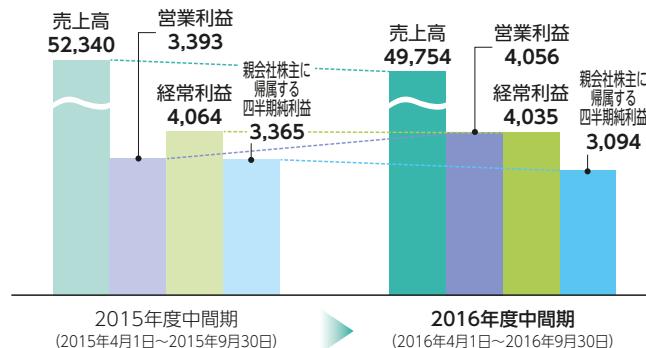
## 財務の状況

(単位:百万円、未満切り捨て)



## 収益の状況

(単位:百万円、未満切り捨て)

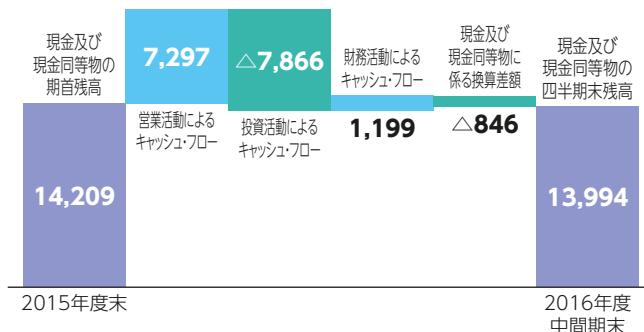


総資産は1,282億円となり、前期末比17億円減少しました。これは、有形固定資産が15億円増加したものの、株式の時価下落等による投資有価証券が10億円、売掛権が21億円それぞれ減少したことによります。負債・純資産では、負債が8億円増加し、純資産は、利益剰余金が23億円増加したものの、為替換算調整勘定が43億円減少したことなどにより、25億円の減少となりました。

当第2四半期決算は、円高による為替換算影響があり、連結売上高は497億円と前年同期比約5%の減収となりましたが、営業利益40億円は、過去最高を記録することができました。経常利益は主に為替差損の影響により40億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は30億円と、それぞれ前年同期比減益となりました。

## 連結キャッシュ・フロー

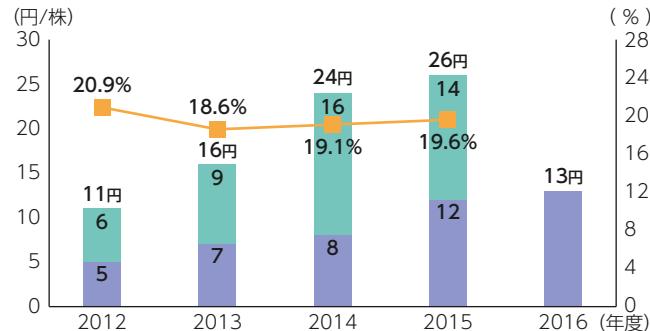
(単位:百万円、未満切り捨て)



営業活動により72億円のキャッシュを獲得し、投資活動で設備投資等に78億円のキャッシュを支出したため、フリー・キャッシュ・フローは5億円のマイナスとなりました。これに財務活動で獲得した11億円と、現金及び現金同等物に係る換算差額8億円をマイナスした結果、当四半期末の手持資金は、前期末から2億円減少し139億円となりました。

## 配当金の推移／連結配当性向

■ 中間配当 ■ 期末配当 ■ 連結配当性向



当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題とし、安定的な配当の継続を基本に業績及び配当性向等を総合的に勘案し、剰余金の配当を行っています。2016年度中間期の配当金は、1株当たり13円といたしました。

(注) 2014年度の期末配当には、85周年記念配当2円が含まれております。

(2016年9月30日現在)

## 会社の概要

社名 太平洋工業株式会社  
Pacific Industrial Co., Ltd.  
本社所在地 〒503-8603 岐阜県大垣市久徳町 100 番地  
TEL 0584-91-1111 (大代表)  
設立 1930年8月8日  
資本金 4,504百万円  
従業員数 1,695名 (連結: 3,467名)  
事業内容 自動車部品、電子機器製品等の製造  
ならびに販売

## 国内拠点 8工場

西大垣工場、東大垣工場、北大垣工場、養老工場、  
美濃工場、九州工場、栗原工場、若柳工場

## グループ会社

日本 太平洋産業株式会社  
ピーアイシステム株式会社  
PEC ホールディングス株式会社  
台湾 太平洋汽門工業股份有限公司  
韓国 太平洋バルブ工業株式会社  
太平洋エアコントロール工業株式会社  
米国 Pacific Industries USA Inc.  
Pacific Manufacturing Ohio, Inc.  
Pacific Manufacturing Tennessee, Inc.  
タイ Pacific Industries (Thailand) Co., Ltd.  
中国 太平洋工業 (中国) 投資有限公司  
天津太平洋汽車部件有限公司  
長沙太平洋半谷汽車部件有限公司  
太平洋汽車部件科技 (常熟) 有限公司  
ベルギー Pacific Industries Europe NV/SA

## 株式の状況

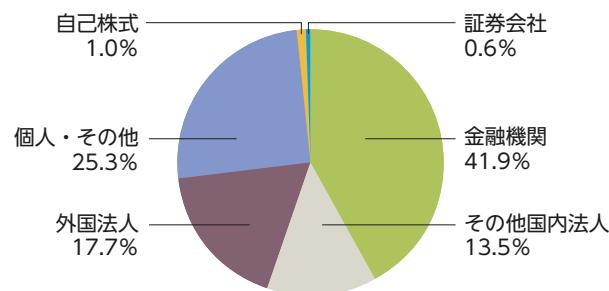
発行可能株式総数 90,000,000 株  
発行済株式の総数 55,054,599 株  
株主数 3,635 名

## 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,308	6.06
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,679	4.91
株式会社大垣共立銀行	2,671	4.90
株式会社十六銀行	2,619	4.80
日本生命保険相互会社	2,359	4.32
第一生命保険株式会社	2,349	4.31
PECホールディングス株式会社	1,987	3.64
岐建株式会社	1,891	3.46
太平洋工業取引先持株会	1,860	3.41
太平洋工業社員持株会	1,439	2.64

(注) 持株比率は自己株式を控除しております。

## 所有者別株式数分布状況



## 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主確定日 3月31日

中間配当金受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人  
特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号  
Tel 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所・名古屋証券取引所 市場第一部

単 元 株 式 数 100株

証 券 コ ー ド 7250

告 告 の 方 法 当社のホームページに掲載いたします。

公告掲載 URL

<http://www.pacific-ind.co.jp/koukoku/>

(ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、中部経済新聞および日本経済新聞に公告いたします。)

## 当社ホームページのご案内



# www.pacific-ind.co.jp

当社のホームページでは、企業情報、IR・投資家情報、CSR・環境情報などさまざまな情報を掲載しております。

**PACIFIC** 木平洋工業株式会社

〒503-8603 岐阜県大垣市久徳町100 番地

TEL 0584-91-1111 (大代表) FAX 0584-92-1804

[www.pacific-ind.co.jp](http://www.pacific-ind.co.jp)

UD  
FONT  
by MORISAWA



発行日：2016年11月24日

この印刷物は適切に管理された森林からの原料を含むFSC®  
認証紙および植物油インクを使用しています。